

北海道松前沖における海底地盤調査

- 促進区域指定ガイドラインを目安として、海底地盤状況を確認するため、以下の調査を実施した。

区分	調査項目	取得データ	測定頻度等	備考
海底地形	深淺測量	海底形状(水深)、海底人工物の有無	測線間隔 約2km	1素子
海底地層	音波探査	海底面下の地層構造	測線間隔 約2km	
海底地質	標準貫入試験等	海底面下の土質性状(N値、粒度組成等)	1本(調査延長 約27m)	

- 調査によって確認された海底地盤の状況は以下のとおり。
 - ① 区域内の水深は、**20m未満が約20%、30m未満が約50%、40m未満が約75%**であり、**区域内の最も深い箇所的水深は、約67m**であった。
 - ② 音波探査結果から区域の沿岸部で**岩盤が露出している箇所が確認された。**
 - ③ 標準貫入試験調査地点における堆積土の性状は、**海底面から約23mは玉石の混入した礫質土層主体**であり、**その下は工学的基盤と推定される岩盤（凝灰岩）**で構成される。

(まとめ)

- 調査の結果、有望な区域の海底地盤において、**洋上風力発電を実施する上で特に不相当と確認される点はなかった。**

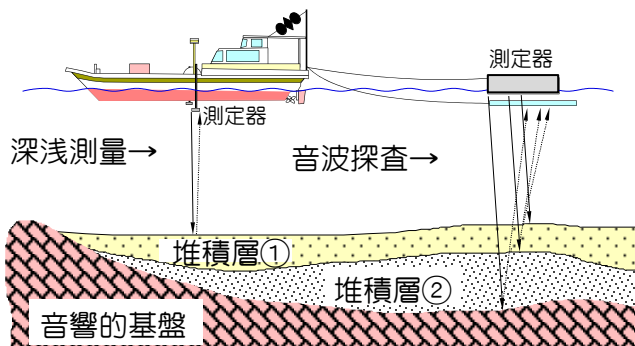


図1 深淺測量、音波探査概念図

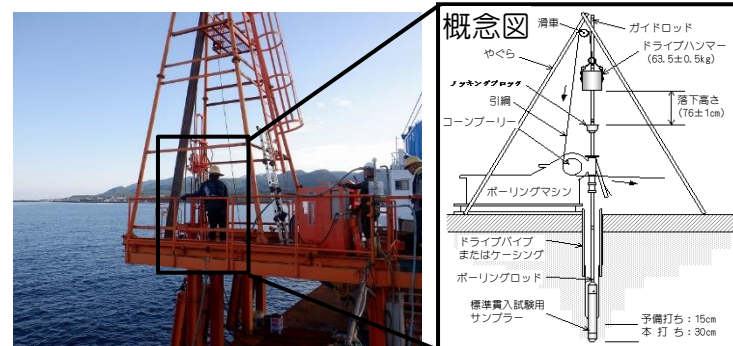


図2 標準貫入試験 (写真・概念図)



写真1 作業船 (標準貫入試験に使用)